SONIC CITY

2024 SERIES

2:00pm, July 6th (SAT),
2024

144

ソニックシティ 2024 シリーズ　第 144 回さいたま定期演奏会
2024年 7月6日（土）午後２時開演／ソニックシティ　大ホール

第144回さいたま定期演奏会　日本フィルハーモニー交響楽団

トマジ

バラード サクソフォンと管弦楽のための（約16分）

Henri TOMASI: Ballade for Saxophone and Orchestra

ピアソラ（啼鵬編曲）

《エスクアロ（鮫）》／《オブリビオン（忘却）》／《リベルタンゴ》（約13分）

Ástor Pantaleón Piazzolla (arranged by TEIHO): "Esqualo (Shark)" / "Oblivion (Forgetfulness)" / "Libertango"

～休憩(20分)～

ベートーヴェン

交響曲第7番 イ長調 op.92（約36分）

Ludwig van BEETHOVEN: Symphony No.7 in A-major, op.92

指揮：**鈴木優人**

Conductor: SUZUKI Masato

サクソフォン：**上野耕平**

Saxophone: UENO Kohei

コンサートマスター：**扇谷泰朋**［日本フィル・ソロ・コンサートマスター］

Concertmaster: OGITANI Yasutomo, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ：**門脇大樹**［日本フィル・ソロ・チェロ］

Solo Violoncello: KADOWAKI Hiroki, JPO Solo Violoncello

主催

公益財団法人埼玉県産業文化センター／さいたま市／公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援

埼玉県／埼玉県教育委員会／さいたま市教育委員会／埼玉県吹奏楽連盟

表紙作品提供

埼玉県立新座総合技術高等学校 デザイン専攻科　中村　穂乃花

作品名「ハーモニー」

作者コメント「初めてオーケストラを聴いて感動した気持ちや感じた風景と
ハーモニーを色で表現しました。」

【アンケートのお願い】今後のソニックシティ主催公演の参考のため、アンケートへの協力をお願いいたします。アンケートにお答えいただきました方の中から抽選で3名様に本日の出演者・鈴木優人氏、上野耕平氏のサイン色紙をお送りいたします。右の二次元コードより、スマートフォン・タブレットからお答えください。(所要時間約5分)

▶公演終了時、カーテンコールの写真撮影が可能になりました。撮影はスマートフォン・携帯電話のみ、自席にご着席のまま行い、動画の撮影はご遠慮ください。是非、コンサートの感動を多くの方と分かち合っていただければと存じます。（SNS等への投稿の際は、#ソニックシティの追加をお願いします）

©MarcoBorggreve

指　揮：鈴木 優人

東京藝術大学卒業及び同大学院修了。オランダ･ハーグ王立音楽院修了。第71回芸術選奨文部科学大臣新人賞、第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第18回ホテルオークラ音楽賞、第29回渡邉曉雄音楽基金音楽賞受賞。バッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)首席指揮者、読売日本交響楽団指揮者／クリエイティヴ・パートナー、アンサンブル･ジェネシス音楽監督。23年４月より関西フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者に就任。鈴木優人プロデュース・BCJオペラシリーズ、モンテヴェルディ：歌劇《ポッペアの戴冠》(2017)、ヘンデル：歌劇《リナルド》(2020)を上演、後者は第19回佐川吉男音楽賞を受賞。22年5月のグルック：歌劇《オルフェオとエウリディーチェ》(勅使川原三郎新演出)で新国立劇場に指揮者として初登場。23年10月には自身のプロデュースシリーズ第３弾としてヘンデル：歌劇《ジュリオ・チェーザレ》を上演し絶賛を博した。24年2月にはモーツァルト《魔笛》をBCJと共にORCHARD PRODUCE 2024にて上演予定。NHK-FM「古楽の楽しみ」にレギュラー出演。録音はBCJとのJ. S. バッハのチェンバロ協奏曲集(BIS)、タメスティとのデュオ(Harmonia Mundi)など多数。調布国際音楽祭エグゼクティブ･プロデューサー。九州大学客員教授。

Twitter／@eugenesuzuki
Facebook & Instagram／masatosuzukimusic

サクソフォン：上野 耕平

茨城県東海村出身。8歳から吹奏楽部でサクソフォンを始め、東京藝術大学器楽科を卒業。在学中からプロとしてキャリアを積み､鮮烈なCDデビューを果たす｡第28回日本管打楽器コンクールサクソフォン部門第１位・特別大賞(史上最年少)。2014年第6回アドルフ・サックス国際コンクール第2位。現地メディアを通じて日本でも話題になる。2017年度第28回出光音楽賞受賞。2018年第9回岩谷時子賞 奨励賞受賞。現在、国内若手アーティストの中でもトップの位置をしめ、ソリストとして、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京都交響楽団他、国内のほとんどのオーケストラと共演。デビュー以来、常に新たなプログラムにも挑戦し、サクソフォンの可能性を最大限に伝えている。自身の活動と並行してサクソフォン四重奏「The Rev Saxophone Quartet」、吹奏楽団「ぱんだウインドオーケストラ」としても勢力的に活動し、クラシックと吹奏楽を両軸に、上野耕平ワールドを築き上げてきた。NHK-FM「×(かける)クラシック」の司会、テレビ「題名のない音楽会」「妄想トレイン」などメディアとの相性も良い。また、音楽以外にも鉄道と車をこよなく愛し、深く追求し続けている。最新ソロアルバムは「Eau Rouge」(23年9月発売)

躍 ～未来へ向かう新たな躍動感に触れる～

トマジ『バラード サクソフォンと管弦楽のための』

アンリ・トマジ（1901-71）は、フランスで活躍した作曲家であり指揮者。彼の若き日に全盛だった、明晰さや簡明さを旨とする「新古典主義」の影響を受けながらも、故郷のプロヴァンス地方をはじめとする地中海、また指揮者として赴任したフランス領インドシナ等ゆかりの民族音楽、さらにはジャズをも採り入れ、単なる「クラシック音楽」の枠組みの中にとどまらない、独自の作風を作り上げた。

『バラード』は、第二次世界大戦前夜の1938年の作品。妻が書いた詩を基としており、そこには憂鬱や屈折を抱えながらも、それでも客を笑わせざるを得ないピエロの葛藤が、サクソフォン協奏曲のスタイルで描かれてゆく。「アンダンティーノ（「少しだけ前進して」という意味）」「ジグ（イギリスやスコットランド発祥でフランスの宮廷でも大流行した舞踊）」「ブルース」の3つの部分から成る、演奏時間15分ほどの曲である。

ピアソラ『エスクアロ（鮫）』『オブリビオン（忘却）』『リベルタンゴ』

イタリア移民の家族、アルゼンチンのブエノスアイレスに生まれるものの、幼少期にアメリカのニューヨークに渡り…。ピアソラ（1921-92）は、このような文化的多様性の中で生まれ育っている。まただからこそ彼は、タンゴからクラシックに至るまで、幅広いジャンルを貪欲なまでに吸収し、例えばトマジ以上に、自らにしかできない音楽のスタイル、さらには音楽のジャンルを確立していった。しかもそんな彼が、自らの率いるタンゴアンサンブルをはじめ様々な編成のために書いた小品を、本日の演奏会では、自らマルチプレーヤーとして活躍するとともに作曲・編曲にも腕を振るう啼鵬による、サクソフォン独奏とオーケストラとの共演版でお楽しみいただく、というさらなる趣向が凝らされている。

『エスクアロ（鮫）』は1979年の作品。アルゼンチンではポピュラーな小型の鮫釣りに着想を得たもので、手に汗握る釣りの現場のスリルが曲のそこかしこに滲み出ている。元々はピアソラ五重奏団のヴァイオリン奏者の独奏を念頭に書かれたタンゴ調の曲だが、もはや踊るためではなく、いわば「聴くタンゴ」といった内容になっている。『オブリビオン（忘却）』は、元々は1984年に公開された映画『エンリコ4世』のために書かれた映画音楽の1つ。映画そのものはヒットしなかったが、この曲にフランス語の歌詞を付けて歌われるようになったことをきっかけに一躍有名になった。『リベルタンゴ』は、1974年の作品。当時、故郷アルゼンチンの反動的政治に嫌気がさしていたピアソラはイタリアを拠点としており、その中で「リベルタ（自由）」と「タンゴ」を組み合わせた、ピアソラの代名詞ともいえるこの作品が生まれた。

ベートーヴェン『交響曲第7番』

1811年から12年にかけて作られ、1813年に初演された、ベートーヴェンの代表的な1曲だ。

1812年といえば、ナポレオン（1769-1821）率いるフランス軍がロシア戦線で敗北を喫し、その後の失脚へつながる事件が起きた年。ベートーヴェンはナポレオンに対し、フランス革命の体現者として一時は熱狂するものの、ヨーロッパ各地に戦火をもたらす侵略行為が明らかになるに連れ、徐々に距離を置き始めた。

『交響曲第7番』は、ナポレオン相手の戦闘で傷ついた兵士を援助するべく…さらに彼の度重なる敗北を祝うべく、ウィーンでおこなわれた慈善演奏会で初演された。となると、この曲に漲(みなぎ)る爆発的な喜びもよく分かる。19世紀半ばに活躍し、ベートーヴェンを敬愛したワーグナー（1813-83）は、当作品を「舞踏の聖化」と呼んだほど。（またそうした意味でこの交響曲は、ピアソラの『リベルタンゴ』の精神を、1世紀以上前に先取りした作品ともいえる。）

たしかにワーグナーの指摘の通り、各楽章がダンス音楽のリズムに貫かれている。しかも、ベートーヴェンを…さらには一過性ではあったもののナポレオンを崇拝した、新興階級の市民たちが入れ込みそうなものばかりだ。

第1楽章は「タータッタ」というリズムが中心となっており、これは後にトマジの『バラード』でも用いられることとなる「ジグ」に基づいたもの。第3楽章は荒ぶる庶民の踊りである急速な3拍子のスケルツォ、第4楽章は市民階級に人気を博したコントルダンス（元々は「カントリーダンス」）が基となっている。

しかも、これらの熱狂的で輝かしい楽章の最中に、悲痛さや厳粛さを湛えた第2楽章が置かれているのが、ベートーヴェンのベートーヴェンたる所以である。何しろ「タータタ・ターター」というリズムは、伝統的舞踊の1つである「荘重なアルマンド」に欠かせないもの。しかもこのアルマンドは、故人を偲ぶ音楽作品としてバロック時代に流行した「トンボー」(フランス語で墓碑銘という意味）に採り入れられることも多かった。

激しく交差する光と影。そこには、ナポレオンをめぐる激動の時代が大きく影響している。

曲目解説：小宮正安

〈アート〉と音楽 その❷

埼玉県立新座総合技術高校の学生がデザインする表紙が、演奏会のプログラム表紙を飾る「日本フィルさいたま定期演奏会」。現在プログラムの他にロビーを彩る＜アート＞を制作中です。初公開は９月公演から！

これに先立ちまして 2024 シリーズのコラムでは、造形芸術と音楽との関係についてご紹介いたします。

「新古典主義」とは何か？

ピカソ作　バレエ『プルチネッラ』のための舞台デザイン 1920 年

曲目解説におけるトマジの項目で、「新古典主義」という単語を用いた。

西洋音楽の世界で「新古典主義」といえば、20世紀前半の両大戦間に流行した芸術潮流の１つ。19世紀半ば以降、絵画や音楽、文学を席巻したロマン主義、つまり人間の内面や精神の深みをドロドロになるまで究めようとする動きに背を向け、あくまでドライな意識を保ちながら、明晰さや簡明さに彩られた造形バランスが求められた。その背後には、ロマン主義的な世界に耽溺（たんでき）した19世紀後半のヨーロッパの社会がやがて袋小路に陥り、その結果積もり積もった様々な矛盾が第一次世界大戦を引き起こしたことへの反省があった。

その典型的な表れが、当時パリで活躍していた作曲家イーゴリ・ストラヴィンスキーの作曲したバレエ音楽『プルチネッラ』である。18世紀以前ヨーロッパで一世を風靡した喜劇集団「コメディア・デラルテ」の軽やかな笑い、つまり「古典」を今に蘇らせようという試みの1つで、舞台美術をパブロ・ピカソが担当した。ピカソといえば、それこそ20世紀を代表する「前衛的」な絵画の代表者のように見なされるが、そうした作風も、ロマン主義をはじめとする19世紀的なものの克服をはかるべく、18世紀以前の芸術潮流に着目する「新古典主義」的動きによってももたらされた。

ところが、当の美術をはじめとする造形芸術の世界において「新古典主義」というと、18世紀末から19世紀初頭、つまり市民革命の時代におきた潮流のことを指すのだから、話がややこしい。こちらは、それこそ古代民主制が育まれた古代ギリシアの美術や建築に規範を求め、それがもたらす均整の取れた造形感覚を、市民が主体となってあらためて民主制を築こうという機運に積極的に用いようというものだった（なお当時の音楽の世界におけるこうした動きは、「古典主義」と呼ばれるようになる）。

ただしこれが、やがては近代市民社会の誕生の中、何よりも「個人」が重視される中、個人の内面や精神にどこまでも下りてゆこうとするロマン主義を生み出した。そして音楽の世界においては、それを克服するための「新古典主義」が生まれたのだった。

文章：小宮正安

第 144 回さいたま定期演奏会に寄せて

この度は第 144 回さいたま定期演奏会の開催を心よりお慶び申し上げます。

今回、ステージ左側には樹齢約 100 年のイワシデを展示させて頂きました。イワシデはシデ類の中で最も葉が小さく、白く独特な幹模様をしている事から、古くより盆栽として愛好されてきました。力強い根張りと、株元から分岐した二つの幹は、厳しい自然の情景を彷彿とさせます。春夏の緑葉、秋の紅葉、冬には寒樹（かんじゅ）の姿もご鑑賞頂ける為、四季を通じて見応えのある樹種でございます。

右側には、樹齢約 100 年の蝦夷松 (エゾマツ) を展示させて頂きました。蝦夷松は、北海道を中心に日本の北部地域に自生する常緑針葉樹で、日本の伝統的な庭園や公園、街路樹などで広く利用される、風格ある美しい景観を作り出す重要な樹種の一つです。本作は下枝を敢えて残さず仕立てることで、厳しい環境で枝を淘汰しながらも生き永らえる姿を表現しております。逞しく佇むその姿は風が強く吹く雪原の景色を想像させます。

オーケストラの演奏と、盆栽の景色の調和をお楽しみいただけましたら幸甚に存じます。

盆栽清香園　山田寅幸

清香園 history

江戸末期、庶民の文化としての園芸が花開いた時代、初代庄之助が現在の台東区根岸のあたりに創業いたしました。
清香園の屋号の由来は、梅の盆栽を多く手がけていたことから「清く香る園」といたしました。
二代目初五郎は、薄鉢で竹の盆栽を作ることを得意とし、三代目釜次郎は石付き盆栽を得意としました。この釜次郎の代で太平洋戦争の戦災を逃れて大宮の盆栽村に移住。現在は、四代目の登美男が園主で、盆栽種全般を扱っております。さいたま市北区の盆栽町（通称盆栽村）には毎日、海外からのお客様が訪れています。

お客様に一番身近な「窓口」としての専門店を目指して

盆栽園という枠組みに捉われず、
お客様に寄り添う専門店を実現していきます。

©MASATOSHI YAMASHIRO

日本フィルハーモニー交響楽団

第145回さいたま定期演奏会

2024 9.13 FRI

指揮：原田慶太楼　ヴァイオリン：辻彩奈

曲目：ジェニファー・ヒグドン／
ファンファーレ・リトミコ
モーツァルト／ヴァイオリン協奏曲第4番
ショスタコーヴィッチ／交響曲第5番「革命」

©Makoto Kamiya

公演詳細

©MICHIKO YAMAMOTO

日本フィルハーモニー交響楽団

第146回さいたま定期演奏会

2024 11.9 SAT

指揮：小林研一郎　ピアノ：小山実稚恵
［桂冠名誉指揮者］

曲目：ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番
リムスキー＝コルサコフ／
交響組曲「シェヘラザード」

©HIDEAKI OTSUKA

公演詳細

©NAOYA YAMAGUCHI

日本フィルハーモニー交響楽団

第九演奏会 2024

2024 12.13 FRI

指揮：下野竜也
ソプラノ：冨平安希子　アルト：小泉詠子
テノール：糸賀修平　バリトン：宮本益光
合唱：埼玉第九合唱団

曲目：ニコライ／歌劇「ウィンザーの陽気な女房たち」序曲
ベートーヴェン／交響曲第9番「合唱」

©YOSHINOBUFUKAYA aura

公演詳細

公演詳細

公演詳細

会場：**ソニックシティ 大ホール**

■ **チケット価格（単独券）**「第九」、「バレエ」公演の価格は通常公演とは異なります。
S：6,000 円　A：4,500 円　B：3,500 円　Ys（19 歳以下）：2,000 円（9.13/11.9/2025 1.11）
S：7,000 円　A：5,500 円　B：4,000 円　Ys（19 歳以下）：2,000 円（12.13/2025 3.15）
ホールメンバーズ、チョイス券など、各種割引あり。

［お問合せ］ソニックシティホールメンバーズ事務局 048-647-7722（9:00〜17:00 土日祝除く）

SONIC CITY

春風亭一之輔

ソニックシティ独演会2024

2024 8月28日（水）

開場18:30／開演19:00

ソニックシティ小ホール

ソニックシティHP

チケットのお申込みは上記お問合せ又はこちら

全席指定￥4,500（ホールメンバーズ会員￥4,000）

［会員先行発売］5/14（火）［一般発売］5/15（水）

●ネット予約のご利用には、初めに利用登録が必要です。●お申込みいただいたチケットの変更、キャンセルはできません。●未就学児のご入場はご遠慮ください。●開演時刻を過ぎますと、ご入場をお待ちいただく場合があります。

ソニックシティ初独演会でございます！

©キッチンミノル

［主催］公益財団法人埼玉県産業文化センター ［後援］埼玉県、埼玉県教育委員会、さいたま市、さいたま市教育委員会

7月27日（土）13:00 & 16:30 ソニックシティ

その他 東京芸術劇場、サントリーホール、ウェスタ川越等で開催！

～プログラム～

第１部
夏休みコンサート 50回記念
信長貴富：《音楽のとびら》
～管弦楽のためのファンファーレ～
アンダーソン：舞踏会の美女
エルガー：愛のあいさつ
ホルスト：惑星より《木星》（夏休みコンサート版）

第２部
―――バレエ（7/19-7/31）―――
チャイコフスキー：バレエ《くるみ割り人形》
（夏休みコンサート 2024版）
―――わくわくピアノ（8/2-8/6）―――
バッハ：メヌエット
ショパン：幻想即興曲
ドビュッシー：ゴリウォーグのケークウォーク
（「子供の領分」より）
ガーシュウィン：ラプソディ・イン・ブルー

第３部
さんぽ　ふるさと 勇気 100%

第2部 バレエ
指揮：梅田俊明　お話とうた：江原陽子
バレエ：スターダンサーズ・バレエ団／バレエ演出・振付：鈴木稔

7月19日（金）	14:00	相模女子大学グリーンホール
7月20日（土）	13:00 & 17:00	東京芸術劇場
7月21日（日）	13:00 & 16:30	サントリーホール
7月25日（木）	14:00	松戸・森のホール 21
7月27日（土）	13:00 & 16:30	ソニックシティ
7月28日（日）	13:00 & 16:30	横浜みなとみらいホール
7月30日（火）	14:00	ウェスタ川越　大ホール
7月31日（水）	14:00	江戸川区総合文化センター

第2部 ピアノ
指揮：永峰大輔　お話とうた：江原陽子　ピアノ：上原彩子

8月 2日（金）	13:00 & 16:30	サントリーホール
8月 3日（土）	13:00 & 16:30	横浜みなとみらいホール
8月 6日（火）	13:00 & 17:00	東京芸術劇場

好評発売中！

料金［全席指定・消費税込］
S 席：子供 3,400 円／大人 5,600 円
A 席：子供 2,700 円／大人 4,600 円
B 席：子供 2,000 円／大人 3,600 円

※子供＝４歳～高校生　※４歳未満は入場できません。
チケットはお一人一枚ご用意ください。
★演奏時間は休憩を含めて約１時間 50 分です。

【お申込み】日本フィル・サービスセンター
TEL：03-5378-5911（平日 10 時 -17 時）　e チケット♪　https://eticket.japanphil.or.jp

Sonic City Dance シリーズ

社会人のための ダンスワークショップ
７月４日（木）～

ダンスフリースタイル 2024
８月２４日（土）

ソニックダンスステージ 2025
２０２５年
２月１日（土）